

佛心



仏さまの智慧と光

9月18日に、トロント仏教会で、秋期彼岸会の法要を勤めさせていただきました。このお彼岸法要は、春と秋の年2回、昼と夜の時間が同じになる時期に行われる法要です。

お彼岸とは、文字通り、彼の岸、のことです。お釈迦様の教えでは、此の岸(此岸)に住む私たちのころには、「瞋恚・貪欲・愚痴」の三毒があると説かれています。執着や貪りや怒りのところが、正しい道を見る目を曇らせるので、煩惱と呼ぶこともあります。

浄土真宗では、私たちは皆、この煩惱が具足しているので、自らをたよりとする力(自力)でその三毒を取り除くのは不可能であると聞かせていただきます。

二〇二二年一〇月号

浄土真宗 本願寺派

トロント仏教会

このお彼岸では、阿弥陀如来のおはたらきに手を合せると同時に、自我の深いところに隠れている煩惱を知り、自らを内省する時間であると考えても良いかもしれません。なぜなら、そこから見えてくる仏様の光があるからです。

仏教では、仏になることを志す者が歩む菩薩の道を説いています。その道を白道といえます。その百道は、阿弥陀の光によって照らされ、如来の智慧がそなわっていると言われています。

親鸞聖人は正信偈や和讃の中で、阿弥陀如来の智慧を光として多く例えられました。

智慧の光明 はかりなし
有量の諸相 ことごとく
光暎かぶらぬ ものはなし
真実明に 帰命せよ

「真実に目覚めた阿弥陀仏の智慧は、光となつてあらゆるものを照らし、そのはたらきは凡夫の心で到底量り知ることができないために無量光と呼ばれています。

そして、ちょうど、光があかつきの闇を

破るように、迷いの衆生を一人残さず照らして、限りある智慧しかもたない存在であることを知らせます。

ですから、ありのままの真実の相に気づかせてくださる阿弥陀仏にすべてをまかせずしてどうしておられましょうか。」

とお書きになりました。

私たちの知る光とは、物質的なものに遮られます。もし私と光の間に壁となる障害があると、その光は私のところまで届きません。

しかし、仏様の光とは、私たちがこの目で実際に見える光ではありません。なぜなら、それ自体が仏様のおはたらきであるからです。そして、そのおはたらきには、つねに仏様の智慧が含まれています。

私たち人間にも知恵があります。では仏さまの智慧と私たち衆生の知恵は、何が違うのでしょうか？人間の知恵とは知識みたいなもので、懐中電灯のようなものです。

例えば、暗い部屋の中にとしましなにかどこにあるのか全く分かりま

せん。そこで周囲を調べるために懐中電灯を使います。

確かに懐中電灯を使えば部屋のどこに何があるのか知ることが出来ます。しかし、部屋の全体を一度に隅々まで知ることはできません。

また、この懐中電灯はやっかいなもので、見たいものは見えるが、見たくないものは見なくて済むところです。一方で、見たくても見ることができないものもあります。例えば、自分の姿です。

私たちは、自分の姿を見ると、何を普段使いますか？多くの人が鏡を使うと思います。

しかし、暗い部屋の中で、懐中電灯を鏡に照らすとどうなるか？鏡は見えますが、肝心の私の姿を見ることができません。だからといって、懐中電灯の光を私自身に照らすと、今度は鏡が見えなくなってしまうのです。

ここでなにを言いたいかと言うと、私たちは物事を見ると、一方の方向からしか見ることができないということなのです。

一つの物事を見るにしても、照らされている表は見えても、影となる裏側を知

ることができません。

そして、自分の力のみで、自分自身の相（こころ）を見ることは到底不可能だということなのです。それが人間の知恵です。

仏様の智慧の光とは、このような私たちの“懐中電灯”の光ではありません。

それはまるで、真つ暗な部屋に窓から差し込む光のようなものです。鏡も部屋にある物も、そして私自身もその光によって照らされます。

さらに、阿弥陀の智慧の光に照らされると、自分の知恵の光では見ることができなかつた、私自身の相がみえてきます。その相とは、煩惱が具足している私です。

なにか自分に不都合なことがあると、怒り、妬み、嫉むこころを持ってしまふ私。それはまさに「三毒（瞋恚・貪欲・愚痴）」が私のこころのなかに根づいているということなのです。

なぜ、怒りと欲望のこころを抱いてしまふのか？それは私たちが、愚痴と

いう真つ暗な部屋にいるからです。

この愚痴は、無明とも言われます。読んでは字のごとく、明かりが無いことをいいます。その不安と恐れのある、暗い部屋にいたとき、阿弥陀如来の光のおはたらきがあれば、この上ない安心があります。

それは照らされているものが、私の周囲にあるものだけではなく、この私自身も照らされているからです。

親鸞聖人は、和讃の中で「雲は雨を降らしてあらゆる生きものをうるおすように、光明のはたらきのうるおいを受けない人は誰一人としていない」と言われました。

阿弥陀如来の光とは、この私の相を知らせると同時に、煩惱を抱く私をそのまま救って下さる、智慧と慈悲のそなわつた光のおはたらきであつたということなのです。

南無阿弥陀仏のお念仏を通して、その光に照らされている私と阿弥陀如来のおはたらきを知ったとき、この手を合せずにはいられません。合掌

浄土真宗本願寺派 トロント仏教会

駐在開教使 大内祐真

法要のお知らせ

永代経法要 (11月)

浄土真宗では、永代供養とはいわず、永代読経＝永代経といえます。亡き人のために永代経懇志を上げていただくことで、将来にわたって(永代に)念仏のみ教えを受け継がれていきます。永代経法要では、読経を通して今まで寺院を支えて下さった往生された方にも感謝を申し上げ、お勤めをさせていただきます。

日時：2021年11月20日(日曜日) 英語午前11時から 日本語午後1時から

場所：トロント仏教会 / Zoom

お勤めの後に永代経にちなんだ法話がございます。
どうぞご家族ご友人を誘ってご参拝下さい。



11月12月の祥月法要

祥月法要とは、祥月命日(故人が往生された月のご命日)をご縁として仏法に会い、阿弥陀さまの恩徳に報謝する思いでお勤めする法要です。

日時：2022年11月6日、12月4日(日曜日) 英語午前11時から 日本語午後1時から

場所：トロント仏教会 / Zoom

※Zoomでの参拝を希望される方は、
その旨を<tbc@tbc.on.ca>までお知らせください。
寺院事務所からzoom link を送らせていただきます。